

GTFS-JPの推進に向けた取組について

令和3年9月17日

国土交通省総合政策局

モビリティサービス推進課

MaaS(マース: Mobility as a Service)とは、

- 地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス
- 手段としてスマホアプリ等を用いることが多い。
- 新たな移動手段(シェアサイクル等)や移動目的に関連したサービス(観光チケットの購入等)も組み合わせることが可能



地域が抱える課題の解決

新しい生活様式への対応 (3密の回避等)	地域や観光地における移動の利便性向上	既存公共交通の有効活用	外出機会の創出と地域活性化	スーパーシティ・スマートシティの実現
-------------------------	--------------------	-------------	---------------	--------------------

令和3年度当初予算: 1億円 / 令和2年度第3次補正予算: 305億円の内数

混雑を回避した移動や、パーソナルな移動など、with/afterコロナにおける新たなニーズにも対応したMaaSを推進するため、公共性の高い取組への支援の他、MaaSの実現に必要な基盤整備や、法改正で新設された計画認定・協議会制度の活用等について支援等を行う。

MaaSの社会実装

混雑、接触回避などの公共性の高い取組などを含んだMaaS（システム構築など）への支援



新たなニーズに対応した取組の推進

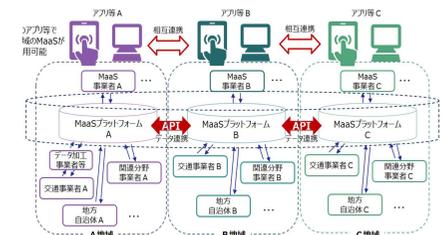
実証実験の成果や、新たなニーズ・課題への対応

- ✓ 混雑を分散させる取組
⇒混雑情報提供システムの導入
- ✓ 接触を避ける取組
⇒キャッシュレス決済の導入（タッチ決済、QRコード、顔認証等）
- ✓ パーソナルな移動環境の充実のための取組
⇒AIオンデマンド交通やシェアサイクル、電動キックボード等の導入

MaaSの円滑な普及に向けた基盤づくり

MaaSの円滑な普及への基盤となる施策への支援

- ✓ 交通事業者におけるデータ化のためのシステム整備支援（GTFS対応）
- ✓ 新モビリティサービス事業計画の策定支援
（計画策定のための調査や達成状況等の評価費用）

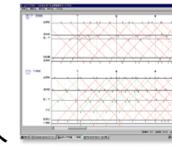


概要

○交通事業者と経路検索事業者等との間のデータの受け渡しを容易にする、「標準的なバス情報フォーマット」、「標準的なフェリー・旅客船航路情報フォーマット」等のGTFS(General Transit Feed Specification)形式でデータを作成し、出力を可能とするシステムの整備を支援



基礎データ登録画面



山ダイヤ自動生成画面



仕事ダイヤ自動生成画面

○システム化・データ化による、MaaS基盤の構築

システム導入

補助対象事業者

○公共交通事業者(鉄道事業者、軌道経営者、一般乗合旅客自動車運送事業者、一般乗用旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者、一般旅客定期航路事業者)、地方公共団体又はこれらを構成員とする協議会

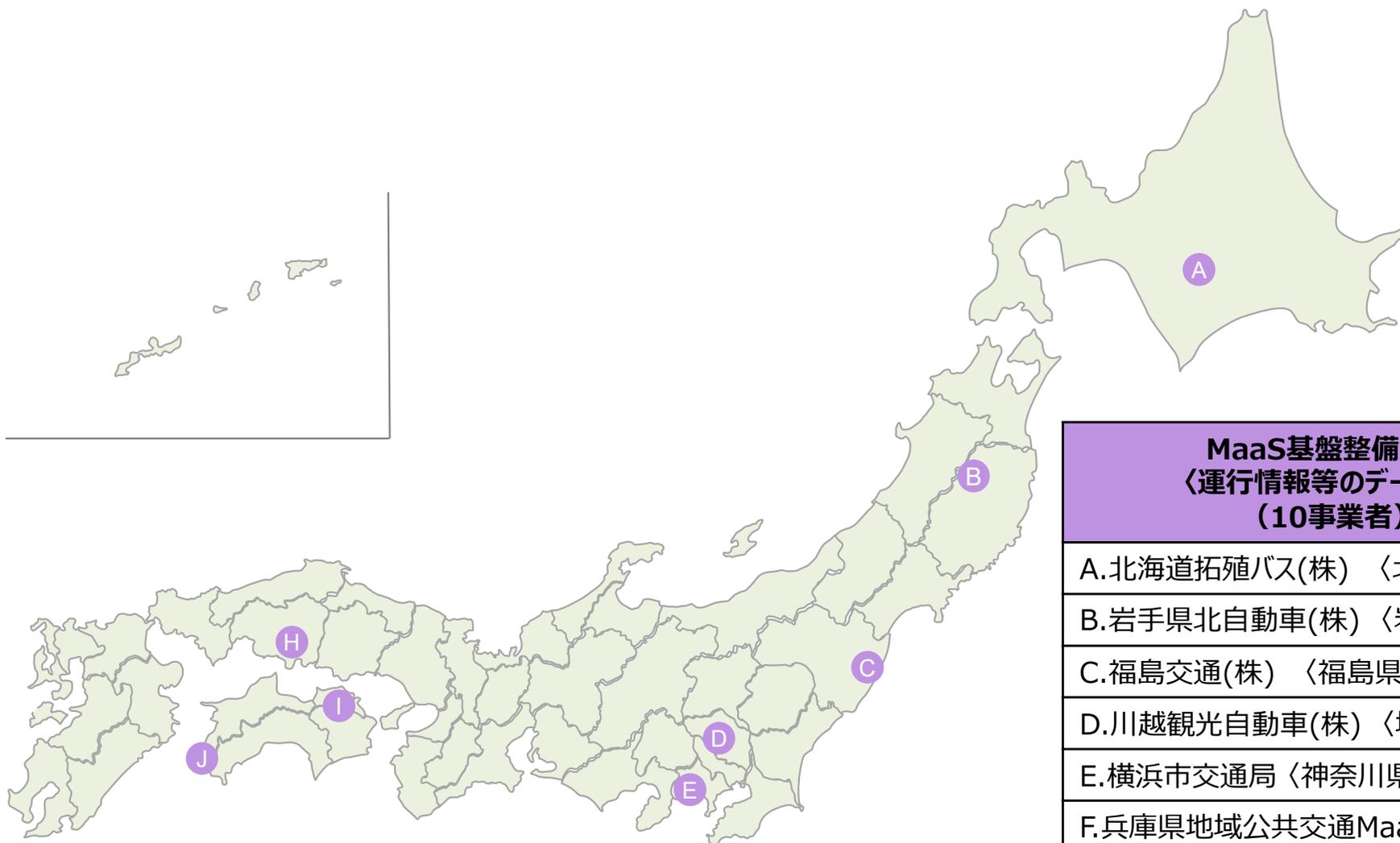
補助対象経費

○交通事業者と経路検索事業者等との間のデータの受け渡しを容易にする特定のデータ形式でのデータ出力を可能とするシステム構築に要する経費

※「MaaS関連データの連携に関するガイドライン」に準拠すること。

補助率

○最大1/2



MaaS基盤整備支援 〈運行情報等のデータ化〉 (10事業者)
A.北海道拓殖バス(株) 〈北海道帯広市〉
B.岩手県北自動車(株) 〈岩手県盛岡市〉
C.福島交通(株) 〈福島県郡山市〉
D.川越観光自動車(株) 〈埼玉県川越市〉
E.横浜市交通局 〈神奈川県横浜市〉
F.兵庫県地域公共交通MaaS推進協議会 〈兵庫県神戸市〉
G.みなと観光バス(株) 〈兵庫県神戸市〉
H.(公社)広島県バス協会 〈広島県広島市〉
I.ことでんバス(株) 〈香川県高松市〉
J.宇和島自動車(株) 〈愛媛県宇和島市〉